

ドイツのアーカイブズ

井岡 博

(慶應義塾大学有期研究員)

分権的性格の強い連邦国家のドイツには様々なアーカイブズが存在するが、現代韓国朝鮮研究において利用される機会が多いのは、「ドイツ外務省政治文書館 (Das Politische Archiv)」⁽¹⁾とドイツ連邦文書館 (Bundesarchiv: BArch) の「ドイツ民主共和国政党・大衆組織関係基金文書館 (Die Stiftung Archiv der Parteien und Massenorganisationen der DDR: SAPMO-BA)」⁽²⁾である。

ベルリン中心部のドイツ外務省に併設された政治文書館には、1867年以降のドイツ外交に関する記録が保管されている。ドイツ統一後は、旧ドイツ民主共和国 (東ドイツ) 外務省の史料もここで管理されている。ここでは、ドイツ連邦文書館法に従ってもはや機密扱いを受けないか、または30年の封鎖期間を経た史料を利用することが可能である。2008年2月19日、ドイツ外務省政治文書館の史料のなかからチョン・サンス明智大学教授 (ドイツ史) が、1906年5月に大韓帝国皇帝の高宗がドイツ皇帝ヴィルヘルムⅡ世に送った密書を発見したという報道は記憶に新しい。第2次日韓条約 (乙巳勅約) の不当性を主張するために高宗が列強に送った密書のうち17通目の発見となるが、その附属史料では、従来の学説とは対照的に、1907年6月のハーグ密使事件の1年以上も前から高宗が国際社会への働きかけを模索していたことが述べられていたという⁽³⁾。

他方、ベルリン郊外のSAPMO-BAでは、東ドイツの政党と大衆組織の記録が集中的に所蔵されている。1990年に東ドイツが西ドイツに吸収統一された当時、東ドイツの各政党と大衆組織の解散によってそれらの記録が宙に浮くこととなってしまった。とりわけ、「社会主義統一党 (SED) 中央委員会マルクス・レーニン主義研究所・党中央ア

ーカイブ (Zentrale Parteiarchiv des Instituts für Marxismus-Leninismus beim ZK der SED)」の記録の行方がその焦点となった。東側では政党や大衆組織は国家的性格を有していたものの、西側ではこれらに国家が介入するには法律的問題があった。結局、1992年3月13日、ドイツ連邦議会とドイツ連邦参議院が連邦文書館法の改正を承認し、連邦文書館の責任が東ドイツの政党と大衆組織の記録にまで拡大されることで落ち着いた。このような経緯から、ここでは、基本的にその封鎖期間に制限されずに史料を利用できる。

現代韓国朝鮮研究においてこれらのアーカイブズが最も貢献しているのは北朝鮮研究である。現在、北朝鮮内部の現地調査が困難な限り隔靴搔痒の思いを拭い去ることはできないにしても、旧ソ連・東欧諸国や中国などの公文書の相次ぐ解禁によって歴史として北朝鮮を叙述できるようにもなっている。そのようななか、かつて東ドイツは、共産圏でソ連・中国に次ぐ第三の地位を占め、北朝鮮との友好な関係を維持していた。また、ドイツのアーカイブズの利用条件も、ロシアや中国のように政治的・財政的条件に左右されることがない。それゆえ、これまでに少なからぬ研究者やジャーナリストの注目が東ドイツの北朝鮮関連史料に集められてきた。

また、これらのアーカイブズでは多岐にわたる数多くの史料が所蔵されている。筆者の現地調査でも、①東ドイツの諸機関による北朝鮮関連の行政文書、②東ドイツと北朝鮮の首脳や各種使節団の会談録や親書、③それらの準備資料、④北朝鮮駐在の外交官や情報官による北朝鮮の政治・経済・軍事状況の報告・分析、⑤北朝鮮高官による政策の報告・説明、⑥ソ連・東欧諸国をはじめ、中国・ベトナム・キューバなどの共産圏の当局に

よる北朝鮮政策の報告・説明、⑦同様に彼らから提供された北朝鮮関連情報、⑧ワルシャワ条約機構やコメコン首脳会議などの国際会議における北朝鮮関連記録、⑨東ドイツと北朝鮮の政治・経済・軍事関係に関する報告・分析などが数多く確認された。これらの一部は、韓国の統一研究院によって発刊された『ドイツ地域北朝鮮機密文書集』からも窺い知ることができる。

ところで、東ドイツの史料を利用した先駆的業績としては、まずオーバーダーファーの『二つのコリア』を挙げないわけにはいかない。ここでは、SAPMO-BAの首脳会談録から引用した金日成の発言など、東ドイツの史料に基づくエピソードがちりばめられている(Oberdorfer 1997)。また、フランクの『東ドイツと北朝鮮——咸興の復興 1954 - 1962』は、上記の二つのアーカイブのみならずデッサウのバウハウス財団の史料も利用した実証研究であり、朝鮮戦争後の北朝鮮の復興を知る上では欠かせない(Frank 1996)。これを基礎としてアームストロングは、国際的な戦後復興支援プロジェクトの全体像を把握しようと試みている(Armstrong 2005)。そして、何よりも東ドイツの一次史料の博搜において特筆すべきなのは、ウッドロウ・ウィルソン国際学術センター(WWC)の冷戦国際歴史プロジェクト(CWIHP)上級研究員のシェーファーの業績であろう(Schäfer (Schaefer) 2003/2004; 2004)。

“鉄のカーテン”の“向こう側”の政策形成と認識を明らかにするためにCWIHPは(旧)社会主義圏の一次史料の渉獵と分析を続けてきている。とくに北朝鮮問題は、北朝鮮国際文書プロジェクト(NKIDP)も組織されるほどの重要テーマとなっている⁽⁴⁾。WWCのホームページではその成果として紀要、ワーキングペーパー、史料(英訳)が公表されている⁽⁵⁾。例えば、ロシアの史料に関してはウェザースビー(Weathersby 1993; 1995/1996; 1998; 2004)を中心として、バジャーノフ(Bajanov 1995/1996)、田鉉秀(Jeon, Hyun-su with Gyo Kahng 1995/1996)、ジョリダン(Jolidan 1995/1996)、レイテンバーグ(Leitenberg 1998)、マンズーロフ(Mansourov 1995/1996)、パーソン(Person 2006)、ラドチェンコ(Radchenko

2005)、下斗米伸夫(下斗米 2006; Shimotomai 2008)などの世界中のフェローによって報告されている。また、中国の史料も陳謙(Chen Jian 1992)や沈之華(Shen Zhihua 2003/2004)によって報告されている⁽⁶⁾。最近では、NKIDPで金東吉とストユークが報告したロシア国立社会政治史文書館(RGASPI)の史料が議論を呼んでいる。紙幅に限りがあるので詳細は省くが、このなかでスターリングが、朝鮮戦争の開戦直後、米国を参戦に誘導するためにあえて国連安全保障理事会を欠席したと述べていたのである(Kim Dong-gil and Stueck 2008)。

そのようななか、シェーファー(Schäfer (Schaefer))も興味深い指摘をしている。ドイツ外務省政治文書館とSAPMO-BA、さらに旧東ドイツ国家保安省文書館(Bundesbeauftragte für die Unterlagen des Staatssicherheitsdienstes der ehemaligen Deutschen Demokratische Republik: BStU)を中心とした北朝鮮関連史料の詳細な調査によれば、研究者が想像していた以上に、金日成の体制と北朝鮮の安全保障にとって中国文化大革命は脅威であったという。例えば、1967年秋に新義州では紅衛兵との衝突で殺された中国朝鮮族たちの死体が、北朝鮮を「修正主義者」と罵る落書きとともに列車で北朝鮮側に送られたこともあった。また、1968年夏に開始された中朝国境の拡声器による非難合戦も次第にエスカレートした。1969年春のアムール川(黒竜江)における中ソ衝突の背後で金日成は、中国軍部隊が豆満江を越えて北朝鮮側に侵入しようとしている情報を得ていたという(Schäfer (Schaefer) 2003/2004; 2004)。

なお、CWIHPでは、ロシア、中国、東ドイツのみならず、ハンガリーのアーカイブを利用したユニークな研究も生み出されている。サロンタイは、中ソ対立のなかで金日成体制が形成されていく過程をハンガリーの平壤駐在外交官たちがどのように眺めていたのか、龐大な一次史料を駆使しながらきわめて丹念に叙述している(Szalontai 2003/2004; 2005)。1956年のハンガリー動乱以後、ハンガリーと北朝鮮の関係が、東ドイツやルーマニアのような他の東欧諸国とは対照的に低調であ

ったという基本的な制約があるものの、その高度な実証性が研究の信頼度を高めている。なお、サロントアイは、北朝鮮の原子力・核開発に関するハンガリーの史料調査も行っている (Szalontai 2006)。

ドイツを含むヨーロッパのアーカイブズは、現代韓国朝鮮研究における新たなフロンティアを提供している。目下のところ、一次史料の“新しさ”が先行してしまっていて、しばしば従来の仮説や主張の再生産のみで終わっているという点ではむしろ“旧さ”を感じさせるかもしれない。しかしながら、そのためにヨーロッパのアーカイブズの価値が損なわれるわけではない。依然として西欧や北欧のアーカイブズでは史料が眠ったままである。欧州統合の進展によって東欧諸国のアーカイブズの利便性も改善されていくであろう。最後に、本稿が読者にとってヨーロッパのアーカイブズに実際に赴いていただくきっかけとなることを希望して擱筆したい。

〈参考文献〉

- Armstrong, Charles, "'Fraternal Socialism': The International Reconstruction of North Korea, 1953-62," *Cold War History*, Vol. 5, No. 2, May, 2005, pp. 161-187.
- Bajanov, Evgueni, "Assessing the Politics of the Korean War, 1949-1951," *CWIHP Bulletin*, No. 6/7, Winter 1995/1996.
- Chen Jian, "The Sino Soviet Alliance and China's Entry in the Korean War," *CWIHP Working Paper*, No. 1, 1992.
- "China's Road to the Korean War" *CWIHP Bulletin*, No. 6/7, Winter 1995/1996.
- Cummings, Bruce and Kathryn Weathersby, "An Exchange on Korean War Origins," *CWIHP Bulletin*, No. 6/7, Winter 1995/1996.
- Frank, Rüdiger, *Die DDR und Nordkorea: Der Wiederaufbau der Stadt Hamhúng von 1954-1962*, Aachen: Shaker, 1996.
- Jeon, Hyun-su with Gyoo Kahng, "The Shtykov Diaries," *CWIHP Bulletin*, No. 6/7, Winter 1995/1996.
- Jolidan, Laurence, "Soviet Interrogation of U.S. POWs in the Korean War," *CWIHP Bulletin*, No. 6/7, Winter 1995/1996.
- Kim, Donggil and William Stueck, "Did Stalin lure the United States into the Korean War? New Evidence on the Origins of the Korean War," *NKIDP e-Dossier*, No. 1, 2008.
- Leitenberg, Milton, "New Russian Evidence on the Korean War Biological Warfare Allegations: Background and Analysis," *CWIHP Bulletin*, No. 11, Winter 1998.
- Mansourov, Alexandre Y., "Stalin, Mao, Kim, and China's Decision to Enter the Korean War, Sept. 16-Oct. 15, 1950: New Evidence from the Russian Archives article and translations," *CWIHP Bulletin*, No. 6/7, Winter 1995/1996.
- Oberdorfer, Don, *The Two Koreas: A Contemporary History*, NY: Basic Books, 1997 (菱木一美訳『二つのコリア——国際政治の中の朝鮮半島』〔特別最新版〕共同通信社、2007年)。
- Person, James F., "'We Need Help from the Outside' The North Korean Opposition Movement of 1956," *CWIHP Working Paper*, No. 52, 2006.
- , "Introduction: New Evidence on North Korea in 1956," *CWIHP Bulletin*, No. 16, Part 5, Spring 2008.
- Radchenko, Sergey S., "The Soviet Union and the North Korean Seizure of the USS Pueblo: Evidence from the Russian Archives," *CWIHP Working Paper*, No. 47, 2005.
- Schäfer (Schaefer), Bernd, "Weathering the Sino-Soviet Conflict: The GDR and North Korea, 1949-1989," *CWIHP Bulletin*, Issue 14/15, Winter 2003/Spring 2004.
- , "North Korean 'Adventurism' and China's Long Shadow, 1966-1972," *CWIHP Working Paper*, No. 44, 2004.
- Shen Zihua, "Sino-North Korean Conflict and its Resolution during the Korean War," *CWIHP Bulletin*, Issue 14/15, Winter 2003-Spring 2004.
- 下斗米伸夫『モスクワと金日成——冷戦の中の北朝鮮 1945-1961年』岩波書店、2006年。
- Shimotomai, Nobuo, "Pyeongyang in 1956," *CWIHP Bulletin*, No. 16, Part 5, Spring 2008.
- Szalontai, Balazs, "'You Have No Political Line of Your Own' Kim Il Sung and the Soviets, 1953-1964," *CWIHP Bulletin*, Issue 14/15, Winter 2003-Spring 2004.
- , *Kim Il Sung in the Khrushchev Era: Soviet-DPRK Relations and the Roots of North Korean Despotism 1953-1964*, Washington, D.C.: Woodrow Wilson Center Press; Stanford, Calif.: Stanford University Press 2005.
- Szalontai, Balazs and Sergey Radchenko, "North Korea's Efforts to Acquire Nuclear Technology and Nuclear Weapons: Evidence from Russian and Hungarian

- Archives," *CWIHP Working Paper*, No. 53, 2006
통일연구원 편 『독일지역 북한기밀문사집』 서울:선인, 2006년.
- Weathersby, Kathryn, "Soviet Aims in Korea and the Origins of the Korean War, 1945-50: New Evidence From Russian Archives," *CWIHP Working Paper*, No. 8, 1993.
- , "New Russian Documents on the Korean War," *CWIHP Bulletin*, No. 6/7, Winter 1995/1996.
- , "Deceiving the Deceivers: Moscow, Beijing, Pyongyang, and the Allegations of Bacteriological Weapons Use in Korea," *CWIHP Bulletin*, No. 11, Winter 1998.
- , "Introduction: New Evidence on Korea," *CWIHP Bulletin*, Issue 14/15, Winter 2003-Spring 2004.
- (1) Kurstrasse 33, 10117 Berlin, BRD. ドイツ外務省政治文書館のウェブサイト参照 (<http://www.auswaertiges-amt.de/diplo/de/AAmt/PolitischesArchiv/Uebersicht.html> [accessed on June 28, 2008]).
- (2) Finckensteinallee 63, 12205 Berlin, BRD. ドイツ連邦

- 文書館のウェブサイト参照 (<http://www.bundesarchiv.de/> [accessed on June 28, 2008]).
- (3) 『中央日報joins.com』 2008年2月20日、21日、23日、27日 (http://article.joins.com/article/article.asp?Total_ID=3046933; http://article.joins.com/article/article.asp?Total_ID=3046953; http://article.joins.com/article/article.asp?ctg=1200%20%20&Total_ID=3048538; http://article.joins.com/article/article.asp?Total_ID=3051027; http://article.joins.com/article/article.asp?Total_ID=3051011; http://article.joins.com/article/article.asp?ctg=1004%20%20&Total_ID=3051208; http://article.joins.com/article/article.asp?total_id=3055088 [accessed on June 28, 2008]).
- (4) CWIHP のウェブサイト参照 (http://www.wilsoncenter.org/index.cfm?fuseaction=topics.home&topic_id=1409 [accessed on June 28, 2008]).
- (5) NKIDP のウェブサイト参照 (http://www.wilsoncenter.org/index.cfm?fuseaction=topics.home&topic_id=230972 [accessed on June 28, 2008]).
- (6) これらは CWIHP と NKIDP のウェブサイトにおいて公開されている。